

20 向道第 3990 号

平成20年10月24日

国土交通省道路局長様

京都府向日市長 久 嶋



今後の道路行政についての意見・提案について

標記の件について、別紙のとおり意見等を提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

京都府向日市

道路は、市民の日常生活を支える最も基礎的かつ重要な社会資本であり、その整備をより一層推進することは、活力と魅力ある地域づくり、安全で快適な環境づくりを実現する上で必要不可欠なものです。

特に、向日市では安心安全なまちづくりを目指して、遅れている道路等の都市基盤整備に全力を傾注しているところではありますが、市内幹線道路のネットワーク網の整備をはじめ、防災対策、歩道のバリアフリー化など多岐に渡る道路整備が求められておりまして、市民要望の中でも道路基盤の整備促進が喫緊の課題となっています。

しかし、向日市における道路予算に占める道路特定財源の割合は4割程度で、他に多額の一般財源と借入金を投入しなければならない状況が続いており、今後も道路基盤の整備に際しましては、多大な財政負担が見込まれているところです。

こうした地方の現状をご賢察いただき、地方が真に必要な道路整備を遅らせることがないように、必要な道路財源を確保し、地方への配分を高めていただくよう要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

<現状と課題>

○歩行者優先の道路づくり

向日市は、将来人口推計値によると2020年には65歳以上の高齢人口が29.2%を占めると予想されており、高齢社会は着実に進行しています。こうした中で、市民の暮らしに密着した道路のバリアフリー化が市民要望として高まってきており、平成18年度策定の「向日市バリアフリー基本構想」に基づく歩行者優先の道路づくりを進めています。

道路整備に当たっては、改正された道路構造令の規定を踏まえつつ、いかに地域の事情等を考慮した設計図にできるかが課題です。

○地元産業基盤の整備

向日市域の東部を南北に縦断する国道171号に沿って物流を中心とした工業地域が広がっておりますが、国道周辺の道路基盤が未整備の状況にあり、既存事業所の市外転出防止が最大の課題となっています。

現在、JR向日町駅東口駅前「交通広場」の整備を検討しておりますが、交通結節機能の強化を図るためには、駅と工業地域を結ぶアクセス道路の整備促進が喫緊の課題となっております。

○都市計画道路網の全面的な見直し

まちの骨格を形成する11路線の都市計画道路は、現在、約28%の整備状況に止まっており、京都府下でも低い位置にあるのが現状です。このため、現在、未整備となっている全ての都市計画道路（9路線、約16.7キロ）について、その必要性を再検証し、道路ネットワーク見直し構想案の策定に取り組んでいるところです。

しかし、向日市と隣接する周辺市との境において、幅員の不整合や代替路線への変更により発生する将来交通量の配分問題で調整がつかない状況が続いております。

②-2 地域の目指すべき将来像

○3 駅を核とした安全で魅力ある未来都市

向日市は、市域面積7.67km²に5万5千人が住み、京都・大阪のベッドタウンとして発展してきました。これは、JR向日町駅及び阪急東向日駅・西向日駅、更には京都市との市境に2駅が開業されており、利便性が非常に高い点が発展の要素となっております。

しかし、まちづくりの観点からみた場合は、都市拠点分散することになり、難しい対応が求められています。特に、道路等の都市基盤整備の遅れが顕在化しており、選択と集中による3駅をつなぐ道路ネットワークの整備促進がまちの継続的発展の条件です。

3駅を核とした安全で魅力的な未来都市を目指して基盤整備を着実に実施していくためにも、真に必要な道路整備の財源確保が不可欠であります。

③道路施策の重点事項

少子高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成

○人にやさしい福祉のまちづくりの推進

誰もが不自由なく利用できる公共施設や駅舎、道路、公園等の施設整備を進め、バリアフリー社会の形成に努めます。

○にぎわいと活力にあふれたまちづくりの推進

- ・ JR向日町駅東西自由通路の整備と橋上駅化による完全なバリアフリー化の促進
- ・ 阪急東向日駅・西向日駅舎のバリアフリー化と周辺整備
- ・ 駅を結ぶ都市軸の整備
- ・ キリンビール京都工場跡地再開発など新しい都市拠点の計画的誘導

○人にやさしい道づくりの推進

商店街や住宅地内では、自動車の通行機能よりも歩行者重視の立場を基本にした「人にやさしい道づくり」を推進し、高齢者や障害者など、様々な利用者のニーズに応えた整備を進めます。